

第6学年C組 図画工作科学習指導案

授業者 進藤 亨
 研究協力者 長瀬 達也
 教材分析協力者 石井 宏一

1 題材名 「そのぼ」くん登場 ～〇〇発見！デビューさせるのは私～（絵）

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは4年生の「絵の具で遊んで『自分いろがみ』」の学習で、絵の具を筆で塗るだけでなく、ストローやビー玉、ぼかし網と歯ブラシなどを用いて様々な表し方をする活動に取り組んだ。5年生の「〇〇から飛び出す私の物語」の学習では、自分の考えた物語を奥行きが表れるような「見方・考え方」を働かせた構図を工夫して絵に表す活動に取り組んだ。6年生では、感じた春のイメージを絵の具を用いてB6判の小さな画用紙に描く活動に取り組み、春のまだ寒い感じや暖かくなってきた感じ、春に結び付けた自分の気持ちなどを表した。ほとんどの子どもは、4年生で学んだ様々な表し方を用いて、色の組み合わせで自分の感じた春のイメージを表した。しかし、5年生で学んだ大小、重なりなどに着目して、奥行きを表すという「見方・考え方」を働かせて描いた子どもはあまり見られなかった。

このことから、表したいイメージを形や色を組み合わせながら効果的に表すという資質・能力は高まってきているが、構成を意識した「見方・考え方」を意図的に働かせて表す段階には至っていないことがうかがえる。イメージがより伝わる表し方「見方・考え方」を意図的に働かせながら追究していくことで資質・能力が更に高まっていくものと考えられる。そのために、よりイメージと表し方の幅が広がる題材で、どのようなことをどのようにして表すかを考えながら表し方を工夫する力を高めていく必要がある。

(2) 題材について

本題材は、学校の中から顔に見える物（そのぼくん）を探して写真に撮り、「そのぼ」くんを主人公として想像した物語を様々な表し方を用いて絵に表し方する活動である。この活動を通して、**形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える力、また表し方に適した方法などを組み合わせるなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する**という資質・能力を高めることを目指す。本題材では、特に、形や色、構成の美しさに重点を置く。

顔に見える物をキャラクター化して表すことはそれほど難しいことではない。しかし、顔に見えるものを主人公にして、誰と、どこで、何をしているかなどの物語を考え、それが伝わるように表すことは容易ではない。自分が表したいイメージを形や色の組み合わせ、構成の美しさに着目した「見方・考え方」を用いてどのように表すかを考えながら表し方を工夫することで目標とする資質能力が高まっていくものと考えられる。

本題材は、物語性、「見方・考え方」を働かせた表し方、これまで習得した表し方などを存分に発揮できる題材である。

(3) 指導について

様々な表し方を組み合わせてつくった作品を鑑賞し、どのような「見方・考え方」を働かせているのか、これまでに学んだどのような表し方が用いられているかを見合う場を設ける。自分ならこんな表し方をしたいという思いを引き出し、表したいイメージを伝えるために効果的な表し方を用いることで、表したいイメージがより伝わる作品になることを意識させたい。

表したいことの見通しをもつ段階では、誰と誰が、どこで、何をしているのか、どんな気持ちなのか分かるような視点からおおまかなイメージをつくる。そして、自分の考えた物語のアイデアスケッチをグループで紹介し合う活動を設定し、表したいイメージが伝わる構成や表し方を省察しながら構想を練っていく。

作品づくりの段階では、**形や色の組み合わせや構成の美しさなどに着目し、これまで習得した表し方を組み合わせながら、表したいイメージに近づくようにしていく**「見方・考え方」を大切にしていく。「そのぼ」くんと背景をどのように表せばよいのかを省察しながら活動を進められるように、作品づくりの途中で、表したいイメージが伝わるかどうかを視点としてお互いの作品を見合う場を設ける。また、イメージに近づくような表し方を選択することができるように、これまで学んだ表し方の参考作品を掲示する。

題材を通して振り返る段階では、表したいイメージに近づくためにはどんな表し方が効果的だったのか、今後の作品づくりで使えそうな考え方や表し方は何なのかを視点として示し、今後の活動につなげていく。

3 題材の目標（記号は本校の資質・能力表による）

- (1) 表したいイメージに近づくように、形や色の組み合わせ、構成の美しさ、表し方などを工夫して表すことができる。 (e-30)
- (2) 身近な場所から見付けた「顔」に見える物の役割や場所の特徴などから発想を広げ、表したいイメージを描くための効果的な表し方を考えたり、表し方のよさを感じ取り、見方や感じ方を広げたりすることができる。 (d-21) (f-36)
- (3) 形や色の組み合わせのよさや構成の美しさに関心をもち、主体的に自分の表したいことを表そうとしている。 (a-3)

4 題材の構想（総時数8時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

春のイメージ（自分が感じた春のイメージを水彩絵の具を用いて様々な表し方法で表す）6年生

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価（本校の資質・能力との関連）
1	(1) 身の回りから「顔」に見える物を探し、写真に撮る。 ・〇〇が目に見える。 ・組み合わせたら生き物のようになりそう。	・作品づくりの見通しがもてるように、様々な表し方を組み合わせてつくった作品を鑑賞し、身の回りにある「顔」を何に見立てているかについて話し合う場を設ける。	・参考作品から表し方のよさを感じ取り身の回りの「顔」に見える物を探している。〈a-3〉
2 3	(2) 見つけた「顔」を主人公にして表したいことを考える。 ・音楽室から宇宙のアイドルをデビューさせよう。 ・火事からみんなを守るイメージを伝えるために、火の表し方を工夫しよう。	・構成を工夫しながら構想を練ることができるように、参考作品を鑑賞し、効果的に表すための「見方・考え方」を見いだしたり、これまで学んだ表し方の活用を確かめたりする場を設ける。 ・表したいことをはっきりとさせることができるように、「そのば」くんの活躍を紹介し合う場を設ける。	・見つけた「顔」の役割や場所の特徴から発想を広げ、表したいことを考えている。〈d-21〉
4 5 本時	(3) 表したいイメージが効果的に表れているかを確かめながら表す。 ・そのぼくんの並べ方を変えると動きがでるな。 ・天の川のイメージはスパッタリングで出せるぞ。 ・大きさを変えたり、重ねたりすると奥行きが出る。	・表したいイメージを効果的に表すことができるように、様々な表し方がどのような場面に活用できるのかを示した参考作品を掲示する。 ・イメージに合う表し方を選ぶことができるように、経験してきた表し方を試しながら考える場を設ける。	・表したいイメージに近づくように、形や色の組み合わせ、形の並べ方の美しさなどを工夫して表している。〈d-21〉〈e-30〉
6	(4) お互いの作品を見合い、表し方のよさや意図を感じ取り、自分の表し方をふり返る。 ・夕日が沈んでいく感じは色の変化で表すことができるんだ。	・自分に必要な表し方を見付けることができるように、表したいイメージが伝わるかどうかを視点としてグループで見合う場を設ける。	・表し方のよさや美しさ、意図を感じ取り、見方や感じ方を広げている。〈f-36〉
7	(5) ふり返りの気づきを生かして、表したいことがより伝わるように表す。 ・大きさを極端に変えてイメージを強めよう。 ・楽しい感じが強まるような色を加えていこう。	・より表したいイメージを表現することができるように、誰が、どこで、何をしているのかが伝わるための形や色の組み合わせや形の並べ方、表し方の工夫について確認する場を設ける。	・表したいイメージに近づくように、形や色の組み合わせ、構成の美しさなどを工夫して表している。〈d-21〉〈e-30〉
8	(6) 本題材での学びをふり返る。 ・奥行きを表す形の並べ方は次に絵を描くときに使えるな。 ・普段は何気なく見ているものが見方を変えるとこんなに面白く見えるんだな。	・表したいイメージに近づくためにはどんな表し方が効果的だったのか、次の作品づくりで使いそうな考え方や表し方は何なのかを視点として示す。	・表し方のよさや美しさ、意図を感じ取り、見方や感じ方を広げている。〈f-36〉

◎ 本題材で育む主な資質・能力
 ・形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える力。(d-21)
 ・表現に適した方法などを組み合わせるなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する力。(e-30)

○ 「本題材の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
 ・形や色の組み合わせや構成の美しさなどに着目し、これまで習得した表し方を組み合わせながら、表したいイメージに近づくようにしていく。

わたしのお気に入りの場所（学校内のお気に入りの場所を絵で表す）6年生

5 本時の実際 (5 / 8)

(1) ねらい

表したいイメージが伝わるように、形や色の組み合わせ、構成の美しさに着目して、様々な表し方を組み合わせて表すことができる。〈d-21〉〈e-30〉

(2) 展開

○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
10分	<p>①本時の活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公が目立つように置く位置を考えよう。 ・大きさを変えたり重なりついたりすると、表したい感じが伝わるな。 ・火が燃えている感じは、ローラーを使って表そう。 	<p>○表したいイメージを効果的に伝えるために、どのようなことに着目してつくればよいのかを前時でつくった友達の作品を鑑賞を通して確かめる場を設ける。</p> <p>〈着目させたい視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の組み合わせ ・大小 ・重なり
<p>学習課題</p> <p>表したいイメージが伝わるように、形の並べ方や表し方を確かめながらつくろう。</p>		
25分	<p>②表したいイメージが伝わるように表し方を確かめながらつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのばくんを置く場所は、どこがいいかな。 ・よい表し方はないかな。いろいろ試してみよう。 ・流れ星をだんだん小さくしていけば動いている感じが伝わるな。 ・大きさを極端に変えた方が表したいことが伝わるな。 ・海の中の様子は、泡を組み合わせればいいな。 ・天の川はスパッタリングを使おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージに合った表し方を選択することができるように、ビー玉やストロー、スタンプ、スパッタリングなどを用いた参考作品を掲示し、試すことができるコーナーを設置する。 ・表したいイメージを効果的に表すことができるように、様々な表現がどのような場面に活用できるのかを示した参考作品を提示する。 <p>○表したいイメージがはっきりしない子どもには、表したいことがより具体的にイメージできるように、「対話」を通して言語化する場を設ける。</p> <p>○納得した表し方ができずにいる子どもには、イメージに合いそうな表し方や参考になる表し方をしている子どもを紹介し、表し方を選択できるようにする。</p>
10分	<p>③本時の活動をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのばくんの数を増やして、いろいろな向きに置いたら、みんながダンスをしているようになった。 ・サンゴの海のイメージは、明るい色の泡を組み合わせたら思い通りにできた。 ・次の時間は、そのばくんが何をしているのかももっとわかるように工夫してつくろう。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>表したいイメージが伝わるように、色の組み合わせや大小、重なり、位置などの構成に着目して、効果的な表現方法を選び、それらを組み合わせて表している。</p> <p style="text-align: right;">〈d-21〉〈e-30〉 (活動・表現)</p> </div> <p>○次時の活動につながるように、「○○なイメージや感じなどを表すために効果的だったこと」「うまく表せなかったこと」「次に気を付けること」をふり返りの視点として示す。</p>